

日頃の備えが
あなたと、あなたの
大切な人を笑顔にする。

三芳防災



もしもの時にそう思えるように—— 備えのおかげ

いつ起こるか分からない巨大地震やゲリラ豪雨などの自然災害。いざという時、防災意識を持って災害に備えることは重要です。今月号は、私たちが今からできる「備え」について考えます。



2016年熊本地震（熊本県益城町）での家屋倒壊。未曾有の災害も、決して他人事ではありません。

国 内観測史上最大のマグニチュード9.0を観測し、三芳町でも震度5弱を観測した2011年の東日本大震災。町では瓦の崩落や停電、帰宅困難者の発生などの被害があり、震災の混乱は私たちの防災意識を大きく変えていきました。

巨大地震は、発生確率が高いと想定されている地域だけに起こるものではありません。震度7を2回観測した2016年の熊本地震。巨大地震の発生率が1%未満だった断層帯で起きた地震です。日本には発見されていない活断層の存在も複数指摘され、いつどこで大きな地震が起きていても不思議ではないのです。

近年頻発するゲリラ雷雨や大型台風

またここ数年、夏から秋にかけてゲリラ雷雨や大型台風が頻繁に発生し、首都圏でも河川の氾濫や増水、土砂崩れなどで危険が差し迫るケースが度々見られるようになりました。
三芳町は地盤が固く、海も山もなく比較的災害に強い地域ですが、自然災害はいつ訪れるかわかりません。
一方、突然やってくる災害に対して、私たちの備えは万全でしょうか。災害予防には、被害

を出さないための「防災」と、あらかじめ被害発生を想定した上で、その被害を最小限に抑えていく「減災」があり、どちらも普段からの備えが必要です。
「防災フェア」
住民の皆さんに一人でも防災を意識してほしい。そこで町では、住民の皆さんの備えの強化を目的に、10月19日(土)に「三芳町防災フェア(詳細はP7)」を開催します。
平成26年度から全町的な避難訓練として「地域連携避難訓練」を実施してきましたが、「防

災フェア」はこれまで避難訓練に参加がなかった層、特に若い人たちが気軽に参加できるように、一人でも多くの人が防災意識を持って備えをしてもらうための新たな試みです。
命を守るために今からできる「備え」
今月号の特集は、「三芳防災」。いつ起こるか分からない災害に対し、問われている私たちの防災意識。自分や自分が大切と思う人の命を守るために、私たちが今からできる「備え」について一緒に考えてみませんか。

大規模災害に備えた災害協定

三芳町では民間企業や自治体等と災害時応援協定を締結しています。内容は物資供給や医療救助、情報通信など多岐に渡り、有事の際に備えています。



9月7日には、新潟県津南町と災害時の相互応援協定を締結。



今後想定される巨大地震

想定地震	マグニチュード	町内想定震度	30年以内の発生確率
東京湾北部地震	7.3	6弱	70%
茨城県南部地震	7.3	5強	70%
都心南部直下地震	7.3	6弱	70%

(平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査)
今後30年以内にM7級の地震が発生する確率が70%の想定地震は上の3つ。三芳町内でも震度5強～6弱が想定されています。

警報レベルを用いた避難情報

警戒レベル	避難情報など	避難行動(とるべき行動)
5	災害発令情報	すでに災害発生。命を守る最善の行動を。
4	避難勧告・避難指示(緊急)	自宅内より安全な場所へ速やかに避難。
3	避難準備・高齢者等避難開始	高齢者・障がい者・乳幼児等とその支援者は避難。その他の人は避難準備。
2	大雨注意報・洪水注意報	避難に備え、ハザードマップにより避難行動を確認。
1	早期注意情報(警報級の可能性)	災害への心構えを高める。

※警戒レベル3・4・5→町が発令。
警戒レベル1・2→気象庁が発令。

平成31年3月に内閣府の避難勧告等に関するガイドラインが改訂。避難情報に加え、5段階の警報レベルを使用して、住民の皆さんが災害時にとるべき行動を直感的にわかるようにお知らせします。

私の避難所はどこ？

三芳町では小中学校全8校を指定避難所・指定緊急避難場所に指定しています。もしもの時のために、事前に確認しておきましょう。

